

コラム3 次の災害に備え二番堤防の構造

常願寺川左岸、旧山室村西野新から古寺・山室町村の集落をつなぐ約3kmに、断続的に堤防が築かれていた。現存するのは古寺集落東方に残る約150mの堤防である。高さ2～3m、幅6～7mある。堤防のところどころを崩して畑にしている。その場合は、堤防の石積みの痕跡が見られる。安政の大洪水の後、次に起きる洪水に備えて、時の太田組十村金山十次郎の奨励のもとにつくりはじめた堤防である。築堤に関する文書はそれぞれの集落にもなく、金山家は東京に転出して文書を所蔵していないので詳細は不明である。しかし、食糧に事欠くなか、川原のようになった田圃から石を運んで堤防を築いた。7、8歳の幼児達も作業に駆り出された。

堤防に平行して用水も造られ、完成まで20年近く要した。現存している堤防の上には雑木がまばらに生えている。戦後の圃場整備で堤防が破壊され水田化されたが、古老は堤防跡につくった水田は「耕土が浅く下は石だらけだ」と教えてくれた。



写真コラム3-1 水害防除二番堤

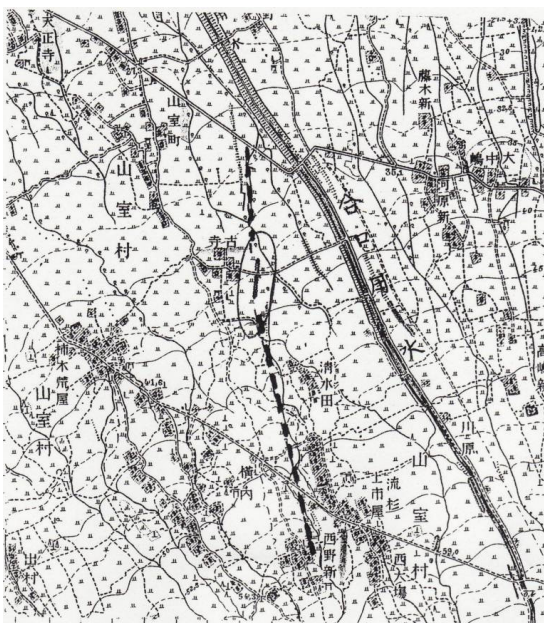
(前田英雄撮影)

安政6(1859)年より20年を要し築造




写真コラム3-2 堤防石積みの痕跡

(前田英雄撮影)



図コラム3-1

安政の災害後に農民の自普請によって築造した堤防の一部

- ・ 堤防の延長 西野新から山室町まで約3km
- ・ 古堤防の現存する場所 
- ・ ----- 線部分は二番堤想定線